

## 令和7年度第3回苫前町地域公共交通活性化協議会 議事録

日 時：令和7年11月26日15:30～16:50

場 所：苫前地区コミュニティセンター 1階 大会議室

出席委員：成川会長ほか11名（出席者名簿のとおり）

欠席委員：坂本委員、工藤委員、林委員、秋山委員、池田委員、藤田（尚）委員、高橋委員、  
大平オブザーバー

事 業 者：株式会社シン技術コンサル 榊原主幹、猪子主事

事 務 局：加賀谷事務局長ほか2名

### 1 開会

事務局（加賀谷室長）

ご案内の時刻になりましたので、ただいまから令和7年度第3回苫前町地域公共交通活性化協議会を開催いたします。

本日の司会を務めさせていただきます、苫前町総合政策室の加賀谷でございます。よろしくお願いいたします。

### 2 挨拶

事務局（加賀谷室長）

はじめに、当協議会の会長であります、苫前町副町長、成川から御挨拶申し上げます。

成川会長（苫前町副町長）

皆様、本日は、ご多忙のところ、苫前町地域公共交通活性化協議会にご出席をいただき、誠にありがとうございます。

本協議会の会長を務めさせていただいております、苫前町副町長の成川でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、本日の会議では、前回会議でご説明させていただきましたとおり、町内の公共交通のマスタープランとなる「苫前町地域公共交通計画」に関しまして、策定支援業務の受託事業者より、住民アンケート調査の結果報告に加え、地域公共交通計画の原案として、本町の現状から課題の整理、今後の地域公共交通の方向性などについて、ご説明させていただく予定です。

計画策定にあたりましては、現状を正確に把握し、本町の実情を的確に反映した計画とすることが重要であると認識しております。委員の皆様におかれましては、何とぞ忌憚のないご意見並びにご助言を賜りますよう、お願い申し上げます。

本日は限られた時間ではございますが、実りあるご審議を賜りますよう、重ねてお願いを申し上げます。簡単ではございますが、開会にあたってのご挨拶とさせていただきます。

本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

（資料確認・委員紹介・会議成立報告）

事務局（加賀谷室長）

それでは、本日の議事に入ります前に、まず、本日の資料の確認をさせていただきます。

（配布資料の確認）

事務局（加賀谷室長）

なお、本日は、坂本委員、工藤委員、林委員、秋山委員、池田委員、藤田（尚）委員、高橋委員、オブザーバーである大平様の計8名がご欠席となっておりますが、オンライン出席を合わせ、会長以下、委員19名中12名と過半数の出席がございますので、会議が成立していることを、ここで御報告させていただきます。なおご欠席されている委員の2人の方からは、本日の議題につきまして、賛否を頂戴しておりますので、合わせてご報告をさせていただきます。

事務局（加賀谷室長）

それでは、これより議事に入ってまいります。

協議会規約に基づき、成川会長に会議の議長を務めていただき、進行してまいりますので、よろしくお願いいたします。

### 3 議事

成川会長（苫前町副町長）

ここから、進行を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。以後、着座にて失礼します。

まず、議案第1号「住民アンケート調査結果の報告及び地域公共交通計画原案（第1章～第4章）について」を議題とさせていただきます。事務局から説明をお願いします。

事務局（戸川係長）

はい。

本議案につきましては、計画策定支援業務の受託業者であります、株式会社シン技術コンサルの担当者の方からご説明させていただきますので、よろしくお願いいたします。

榊原主幹（株式会社シン技術コンサル）

シン技術コンサルの榊原です。

それから営業の猪子の2名で参加させていただいております。よろしくお願いいたします。

それでは着席して説明させていただきます。

（議案説明）

成川会長（苫前町副町長）

長い説明となりましたが、ご質問やご意見などありましたら、ご発言をお願いします。

事務局（加賀谷室長）

担当として補足させていただくと、計画としては令和8年から5年間の予定でして、現在町内の交通事業者の皆様には色々ご協力いただいておりますけれども、来年4月から何かが変わるというよりは、まだ分析の足りないところがあったりですとか、今回のアンケートでも町内の皆さんにご協力をいただいておりますが、数が少ないので、ここで見えてきたところをさらに掘り下げる部分、こんなところもうちょっとしっかり調べた方がいい、ということもあったりするかもしれませんので、そういったところも含め、5年間の計画の中でしっか

りと体制が維持できて、改善できるものがあれば、取り組んでいきたいというところで、ご意見等いただきながらまとめていければ、と思っているところでございますので、説明をお聞きになってのご不明な点ですとか、委員の皆さんの個人的な思いでも構いませんので、町民からちょっとこんな困っているところを聞いているだとか、こういったところがさらに便利になっていけばいいなといったことがあれば、ご意見をいただけると参考になりますのでよろしくお願いします。

小西委員（苫前町内会副会長）

藤田（雅）委員にお聞きしたいのですが、免許の返納というのは、皆さん大体何歳くらいでされていますか。

私は今 72 歳で、あと 10 年は乗るだろうと思っていて、アンケート結果を見ると、85 歳でまだ乗ると言っている人もいて、私は運転に不安はないですが、交通は自分だけの問題ではないし、事故があったら困るので、80 歳くらいでも遅い気がしていて、その辺を聞きたいなと。

公共交通の施策については、今でも遅いくらいで早くやらねえとと思っています。

それと女性の免許保有率を調べて欲しい。同世代より下の世代は免許をもっていると思うが、その上の人は持っていないと思うので。

藤田（雅）委員（羽幌警察署地域・交通課長）

あの様々です。

いわゆる体の機能が低下したりだとか、交通事故にあってしまうと、家庭の事情であったりとか、ご本人やご家族の居住地を考えた上で、返納していただいておりますが、一概に何歳というのは、申し上げられなくて、その人によって、本当に異なります。

10 歳過ぎても全然認知機能も全く問題ない方もいらっしゃるれば、逆に若くして支障が出る方もいて、ご家族からちょっと返納した方がいいんじゃないか、ということで、自主返納する方もいる一方で、逆に警察から事故を多数起こしていて、認知の検査とかもギリギリな方がいまして、返納を推奨しても返納しない方もいらっしゃる状況です。

成川会長（苫前町副町長）

免許返納の年齢については、本当に藤田（雅）委員のおっしゃるとおりで、アンケート上はどうしても何歳までの方が運転しているという結果が出ていますが、我が家でもそうだったのですが、家族からの声掛けによるものや、後は若くして認知症になってしまっただけで返納するなど、本当に人それぞれだと思います。

渡部委員（苫前町観光協会会長）

資料についてお聞きしたいのですが、こういった資料は初めて見ましたが、計画書 P29 公共交通勢力圏について、これが半径 300 メートルという話だったと思うのですが、都会の方もそういう決まりになっているのでしょうか。

榊原主幹（株式会社シン技術コンサル）

はい。こちらについては、国土交通省の都市構造の評価に関するハンドブックというものがございまして、バス停だと半径 300m、鉄道駅は苫前町にはありませんが、仮にあるとし

たら半径 800mということで、一般的に決まっております。

渡部委員（苫前町観光協会会長）

その中で、苫前町の公共交通のカバー率は48%になるんですね。

榊原主幹（株式会社シン技術コンサル）

そういうことです。

成川会長（苫前町副町長）

我が町は2拠点化していて、それぞれ奥行きがあって、苫前地区・古丹別地区間にも、国道沿いに香川地区・長島地区があって、古丹別地区からもそれぞれ沢沿いに九重地区・三溪地区・小川地区があって、現状全くカバー出来ていない状況です。

渡部委員（苫前町観光協会会長）

いわゆるデマンド交通みたいなものではないとカバー出来ないというのが現実なのでしょうか。

事務局（加賀谷室長）

補足的に言うと、例えば古丹別地区で色が赤く濃くなっている、人口が多い部分は、今のバス路線の古丹別ターミナルと国道沿いのバス停の間が無いというところで、成川会長からもありましたが、本当に面的な広がりが大きくて、図2-28をご覧くださいれば分かるかと思いますが、九重地区・三溪地区方面が全くカバーされておらず、旭地区・香川地区・長島地区の方もカバーできていなくて、平均を求めるとこの比率が出てしまいます。

表2-4では、管内の小平町と遠別町が出ていますが、小平町の80%超というのは、皆さんご承知のとおり、小平町では達布地区などをデマンド交通で結構カバーしておりまして、そのため、数字としては拾えてしまうところがあります。

渡部委員（苫前町観光協会会長）

小平町は結構早くからデマンド交通をやっていて、苫前町は、その数字が入っていないんですね。

事務局（加賀谷室長）

苫前町はそういったスタイルではなく、にこにこタクシーで山間部の方とかもカバーしているのですが、あくまでもタクシー事業への補助制度といった形になっておりまして、いわゆるデマンド交通の括りとは違うので、公共交通としては評価されていないくて、数字で見るとカバーされていない、ということになってしまうところがあります。

成川会長（苫前町副町長）

小平町は、達布地区をデマンドでカバーしていて、鬼鹿地区から小平本町の方は、奥行きがないので、このカバー率になっているかと思います。

渡部委員（苫前町観光協会会長）

沿岸バスさんは苫前地区の海岸沿いを運行するので、古丹別地区の人は乗り換え1本で行けませんが、結局、山間部の人たちは、そこから更に自分で運転しないといけないので、どうしようかなってというのがありますね。

小西委員（苫前町町内会副会長）

私は、にこにこタクシーはすごく良いと思っていて、本当にそれで良いのではないかなと思うくらいです。

成川会長（苫前町副町長）

町の考え方としなくても、交通空白地に今まで無かったものが出来て便利になる、というのは、全く不可能に近いと思っています。

ただ、にこにこタクシーやスクールバス、僻地患者輸送バスなどの、今あるものをまず見直して、既存のバス路線へのアクセスを良く出来たりだとか、どちらかという、空気を送迎しているような僻地患者輸送バスを改善したりとか、そういうのが現実的な考え方なのかなとは思っております。

また、調査の結果からも上平古丹別線へのアクセスを改善して欲しいという声が一番強いようですし、苫前町は、どちらかという上りも下りも意識しないといけないという地域事情もありまして、小平町とかは留萌行きだけ意識していて、バス停も留萌方面の方には待合所があるけれど、羽幌方面には無いというような。苫前町は、羽幌に行く人もいれば留萌に行く人もいて、両方のアクセスを考える必要があって、その辺は地域性というものもあるかなと思います。

野口委員（苫前町小中学校校長会会長）

お話を聞かせていただいて、本当にその通りだと思いました。やはり9月、10月、今月と大変お世話になっておりまして、今回のクマ騒動でも、子供たちの家の前まで送っていただいて、感謝しております。業者の方と地域住民の方がどちらも得をするような、どちらかが抑えられることがないような感じが一番良いと思います。

特に、今、苫前商業高校の活動も盛り上がっておりますし、また、今回、古丹別中学校が無くなって、苫前中学校に統合になって、その関係とか、休日の子供同士の繋がりとか、その辺りを、送り迎えいただけるようなものがあればありがたいな、というところを一つ思っております。

成川会長（苫前町副町長）

例えば、古丹別中学校が廃校になりましたので、にこにこタクシー等の古丹別から中学生が無料で乗れるようなものがあればなど、個人的には思いました。

事務局（加賀谷室長）

アンケートの方で、今、野口委員がおっしゃったとおりで、中学生は平日大丈夫なのですが、土日になったときに、交流が広がって、友達の所へ遊びに行こうと思ったときに、親御さんが車を提供できないと遊びに行けない、という不便だとか、町を飛び越えてしまうかもしれないかもしれませんが、例えば、小中学生が部活等をするのに町を越えて、色々なクラブチーム的な活動もしているので、子供たちの活動範囲が広がっている面があるのかなと思っていて、

そういったところを上手くカバーしたいと思っております。

通学もそうですし、例えば、発達支援の必要なお子さんたちも、羽幌の発達支援センターに通うときに、親御さんの送迎が必要になって、バスを利用するのは少し気が引けるように考える親御さんも多いのかなと思っていて、そうした移動ニーズもあるのかなと思っていたところです。回答数自体が少なくて残念だったのですが、野口委員のお話があったので、その辺りを掘り下げて考えていけたらと思っております。

野口委員（苫前町小中学校校長会会長）

今回のアンケートの意見のところにありましたけれども、上平のバス停、本当に広くて、自動販売機まであるので良いと思うのですが、あそこに小学生の女の子一人置いておくとしたら、やはり防犯とかの部分でも、中々危ないなっていうところも、このご時世ございますし、最近は熊のことがあるので、熊騒動が起きたときも古丹別のバス停には、子供たちだけで残さない、といった通達もおりてきたこともありますので、その辺のところも視野に入れていただければと思います。

事務局（加賀谷室長）

基本的には、上平での接続の考え方というのは、生活路線バスとの接続が優先というところがあるかもしれませんが、今回、アンケート回答数は少ないのですが、やはり上平古丹別間は、特急はぼろ号ですとか、留萌方面へ移動するニーズというのも多いので、難しいところなのかもしれませんが、改めて、基本的な考え方を共有できればと思いますので、斉藤委員から、よろしいでしょうか。

斉藤委員（沿岸バス株式会社営業部次長）

沿岸バスの斉藤です。

上平古丹別を結ぶ約 10 分間の路線は、いわゆる幹線、留萌方面・羽幌方面・高速バス特急はぼろ号を連絡するようにしております。

これは前にもお話したかと思いますが、地域事情で昭和 62 年の羽幌線が廃止になったときに、古丹別地区に鉄道が入り込んでいたのですが、当時は、力昼地区から九重地区を抜けて古丹別に入る道路が整備されていなかったこともあって、上平で結節点を作って乗り換えるという形を採ったのが始まりです。

昭和 62 年 12 月から上平のバスターミナルを共用開始して、幹線との接続をさせるようにしてきましたが、やはり、人口減少もありますし、利用者も年々減っておりまして、平成 20 年前後に羽幌古丹別線を減便、それまで 3 往復以上あったものが 1 往復に。あと上平古丹別線もご利用がある時間帯を中心に維持しましたけれども、利用の少ない日中、夜遅くの便については、苫前町さんとも協議して減便した経緯があります。

先程 10 月 1 日にダイヤ改正を行いまして、これまで以上の減便を行いました。

実質 6 往復前後の維持になっておりまして、特に休日は、古丹別から羽幌に出ることは出来ませんが、さらに羽幌から古丹別へと往復することは中々難しいようなダイヤになっています。

実際、古丹別から部活動や模試などで高校に行かれる方がいますが、苫前商業高校さんは寮がありますので、バスの利用はほとんどないということもありまして、利用実態に則した最小限のダイヤで運行しているのが現状です。特急はぼろ号の接続も同様でして、以前は増

毛経由の18時台の接続を意識して運行していたのですが、実際、乗り継がれる方が現状では5人を切っており、アンケートを拝見しまして、接続が良くなれば乗りたい旨の意見がありますが、現状利用者が少ないため、接続を諦めて、それらは、生活路線として学校や病院に行けるものを優先して、というのが現在のダイヤになります。

今回、羽幌古丹別線の急行便は、苫前町のご理解のもと、便が増えることになりましたが、背景には、にこにこタクシーによる補完等がありまして、利用の少ない便は削って、利用の多い便を維持する、という選択を採っています。

少し踏み込んだ話になりますけれども、これまでは、他のバス会社さんは運転手不足で緊急的な減便だとか廃止などをやっておりましたけれども、沿岸バスではこれまで、運転手不足を第一の理由とした減便はやっていませんでした。この会議に来る前に、改めて調べましたが、運転手の平均年齢はまもなく60歳に達するところで、定年年齢は65歳でして、なおかつ元気な方については残ってもらえるなら頑張ってくださいという風に声掛けしてやっているところです。

10年後は、まあ、かなり減ることが予想されますので、次のダイヤ改正から、さらにその次のダイヤ改正では、運転手不足を原因にして、一定の利用がある便も減便せざるを得ない状況になるかと思います。

ただ、今、こうした地域の公共交通会議がありますので、民営の沿岸バスが撤退した場合、何かしら次の施策を起こしていただけるののもと思っておりまして、我々も情報提供はさせていただきますので、近い将来、免許返納の話もありましたけれども、バスが無くなった後の、次の交通手段を考える時期に差しかかっていると思いますので、よろしくお願いします。

成川会長（苫前町副町長）

10月のダイヤ改正で、もう相当厳しいですよ。朝と夕方は1時間1本、10時過ぎぐらいから日中は2時間間隔となっている。

斉藤委員（沿岸バス株式会社営業部次長）

まだ苫前町さんは、本当に良いほうで、実際の利用人数を見ると、初山別・遠別間だとかは本当に利用が少ないです。その残された便の利用が、2人、3人といった状況です。

成川会長（苫前町副町長）

高速バスの運営も含め、非常に厳しい状況ですね。

斉藤委員（沿岸バス株式会社営業部次長）

苫前町さんは、古丹別が奥に位置していて、難しい判断を迫られる機会が多いので、我々としても、羽幌高校への通学、時間は掛かりますが留萌高校への通学で利用される方が少なからずいますし、最近では、苫前商業高校の方でも生徒募集を頑張られているので、特急はぼろ号の維持も含めて出来るだけやりたいと思っています。

事務局（加賀谷室長）

商業高校の生徒の中には遠方から進学してくださっている生徒も多いので、週末に札幌などへ帰省して、日曜日に札幌発の最終で帰ってくると古丹別に入れない、ということになってしまっているところもあります。斉藤委員には申し訳ないところもありますが、やはりそ

ういう声を聞きますと、バスではなくて、他の代替手段ですとか、デマンドなどで、帰省しているときの帰りに合わせて予約をいただくとか、上手くカバーして、その様な形で助けてあげることも考えていかないといけないと思っております。

小西委員（苫前町町内会副会長）

苫前町には、今、何世帯あるのでしょうか。

成川会長（苫前町副町長）

約 1,500 世帯弱くらいですね。

小西委員（苫前町町内会副会長）

アンケートには 1 割程子供がいて書いてありますが、150 人もいるのでしょうか。

野口委員（苫前町小中学校校長会会長）

小学校だけで古丹別苫前合わせて 100 くらい、中学校で 30 から 40 くらいいるので、大体いいところかと。

渡部委員（苫前町観光協会会長）

今、斉藤委員からもありましたが、苫前商業高校の生徒は寮生が多いということなのですが、資格試験や販売実習に行く際には、沿岸バスを利用させていただいて、高校の先生が生徒を乗せるというのは難しいので、学校行事等があるときは、商業高校の後援会などがお金を回してバスを手配しているのですが、そういった場合に何か協力できれば良いなと思いました。

成川会長（苫前町副町長）

先程、事務局からもありましたけれど、その辺をデマンド系の何かで補えればなど考えているところです。

事務局（加賀谷室長）

いわゆる普通のタクシーと藤観光バスの方で運営している定員が 30 人程のバスとの中間の部分がないので、例えば 10 人乗りハイエースだとか、いわゆるワゴン車のような、輸送する対象の規模感をしっかり捉えて、そこにジャストフィットするような車両があるのが理想ですね。良いタイミングで動かせるものを目指して考えていきたいところです。

渡部委員（苫前町観光協会会長）

遠別町は、小さいワゴン車を使っていると聞きます。運転手の人件費は削ることはできないですけども、車両代等ランニングコスト等が低くなれば。

渡邊委員（有限会社藤観光バス）

公共交通計画策定にあたり、町の目標として公共交通勢力圏カバー率をどれ位まで上げたいと思っているのでしょうか。



小平町では 80%近く、遠別町で 71.9%と、管内でも今まで色々な話もあったと思いますが、アンケート結果が出て、最終的には町の判断でどこまでカバーするのかというところになると思います。苫前町としては、どれ位までの数字を目指すのか教えていただければ。

成川会長（苫前町副町長）

割合というところ、例えば、今の 48%を 80%まで上げるとか、何%まで上げたいとかのイメージを持っていないというのが正直なところですが。ただ、考え方としては、フィーダー交通を体系化して、その補助金の交付を受けるという選択肢もありまして、例えば、手段としてはスクールバスや僻地患者輸送バスを公共交通の一つの手段と位置付けて、既存の沿岸バスに接続するようなスタイルにするといったところで、今、交通空白地の九重地区などが公共交通のエリアとしてフォロー出来るので、カバー率はかなり上がってくると思います。

どうしてもカバーできない部分も出てきてしまうかと思いますが、解決策として、そのような形も一つあるのではと考えているところです。

渡邊委員（有限会社藤観光バス）

私の中でも、網羅できるところは既存のもので網羅して行って、例えば、バス路線で回りきれない枝の部分タクシーで補完するだとか、何人もいるのであればハイエース等で個人の家の前まで行くっていうイメージはある程度持っていて、それをまとめてやるとなると色々なこともあるだろうなと思い、数字的な目標があるのかなと聞かせていただきました。ありがとうございます。

事務局（加賀谷室長）

私からも。公共交通としては、デマンド交通も含めて、という部分での拾い方でしかないのですが、実際には、今もそうですけれど、タクシーで十分住民が満足できている場合であっても、カバー率に現れてこない部分もあります。

渡邊委員がおっしゃられたとおり、バスなどで公共交通らしくカバーできる部分とそうではない部分というのは、実際に、この計画の中の数字として比率が出たときには、あまり反映されてこないかもしれませんが、皆さんにしっかり利用いただいているというか、足の不便はないという感じで言ってもらえるようなところができるように、と思っていますので、実際の数字にはこだわらずにと言いますか、行政としては、補助金が活用できて、コストが下がればありがたいところではありますけれども、まずは、住民の皆さんのニーズをしっかり考えながら進めていきたいと思います。

成川会長（苫前町副町長）

何か他にご意見等ありますでしょうか。無いようでしたら、課題等たくさんいただきましたので、それを踏まえて今後計画策定を進めていただければと思いますが、本日の議案第 1 号につきましては、ご承認いただいたものとして決定させていただきますが、よろしいでしょうか。

（意見なし）

ありがとうございました。

成川会長（苫前町副町長）

本日の議事については、以上になります。次に次第の「4 その他」ですが、委員の皆様から何かありますでしょうか。

（藤田（雅）委員より挙手あり）

藤田（雅）委員、お願いします。

藤田（雅）委員（羽幌警察署地域・交通課長）

ありがとうございます。皆様には、日頃より交通安全運動に参加していただきましてお礼申し上げます。

私からは、協議会とは直接関係のない宣伝となってしまうのですが、来年の1月12日に1日警察署長を羽幌町で活動しているラッシュというダンスグループの代表の方に委嘱しました。当日の詳細な時間等は決まっておりませんが、12日に羽幌町の公民館大ホールで色々なイベントをやりたいと思っております。

なぜここでご紹介させていただいたかということ、羽幌警察署管内の苫前町、羽幌町、初山別村の住民の方ですとか、ちょうどイベント当日が羽幌町の成人式の翌日です。地元へ帰省している若い世代の方に観ていただけるということで、町の広報にも繋がると思いますので、羽幌町だけでなく、苫前町、初山別村にも行政として参加していただければ、といったところと、ぜひ、イベントを観に来てくださいということで、皆さんのお知り合いにお声掛けいただければと思います。

成川会長（苫前町副町長）

藤田（雅）委員、ありがとうございました。

事務局から何かありますか。

（事務局からは特になし）

## 5 閉会

成川会長（苫前町副町長）

それでは以上をもちまして、本日の会議は、終了といたします。本日は、お忙しい中ご出席いただき、感謝申し上げます。

次回、第4回協議会につきましては、事務局から改めてご案内を申し上げますので、本日はどうもありがとうございました。